令和３年度　横浜市幼保小連携推進地区事業

栄区　上郷地区　活動報告

認定こども園　いのやま
横浜市立　上郷小学校

【推進テーマ】
「子どもの育ちと学びをつなぐ幼保小の交流と連携」
～アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの充実に向けて～

特別支援や合理的な配慮が必要な子どもたちが一般級に多く在籍している実態を踏まえ、従来行ってきた「園での経験を生かせるスタートプログラム」「入学を意識したアプローチカリキュラム」の見直しや改善を今一度行うことが子どもたちのスムーズな接続と安心につながると考える。

【１年目の取り組み計画】

○園児と児童の交流活動を通しての実態把握

・年長児と小学生とが計画的な交流を行うことで、年長児の入学に対する不安を軽減させるとともに、教員の見取りの場とし入学後の支援の構築に役立てる。

○保育士・教員の交流と研修

・保育士・教職員同士が互いの環境や取り組みの様子を実際に見て知ることで、子ども理解の向上と個に応じた支援について具体的に考えることができる。また互いの関係を深めることで連携がスムーズかつ弾力的に行えることをねらう。

・研修を受けて学びを深め、実際の場面やプランニングに生かす。

【活動の経過と今後の予定】

事　業　名	日　時	内　容	
小学校授業参観・参加	4月8日	・スタートカリキュラムの最初に幼稚園教諭が参加・参観	職員の交流・連携①
小学校給食参観	4月12日	・初めての給食の様子を幼稚園教諭が参観	職員の交流・連携②
第１回推進委員会	5月18日	・年間計画について　・事業目標の設定検討	職員の交流・連携③
幼保小接続期研修会	5月11日	・eラーニングによるオンライン研修会	研修
小学校運動会	5月29日	・園の職員が参観	職員の交流・連携④
幼稚園参観	7月7日	・小学校職員が「お誕生日会」参観	職員の交流・連携⑤
幼保小連携研修会	7月27日	・こども青少年局による研修に参加	研修
第２回推進委員会	11月12日	・活動の進捗状況　・今後の交流計画について	職員の交流・連携⑥
幼稚園運動会	10月9日	・小学校職員が園の（分散）運動会を参観	職員の交流・連携⑦
幼稚園参観	12月1日	・小学校職員が園の（分散）発表会を参観	職員の交流・連携⑧
交流会①	12月13日	・1年生が年長児を「どんぐりパーティ」に招待し、一緒に遊ぶ。	子どもの交流①
第３回推進委員会	12月20日	・活動の進捗状況　今後の予定	職員の交流・連携⑨
交流会②	２月２日	・1年生が年長児に小学校を案内したり、一緒に遊んだりする。	子どもの交流②
交流会③	2月21日	・5年生が年長園児と一緒に遊ぶ。	子どもの交流③
音楽会のＤＶＤ交流	2月	・お互いの音楽会の様子を視聴しあい、感想交流をする。	子どもの交流④
区教育交流事業報告会	2月８日	・区教育交流事業報告会で報告	職員の交流・連携⑩
第４回推進委員会	2月下旬	・年間振り返り　次年度計画	

職員の連携・交流①

小学校初日
授業参観と参加

緊張している登校初日、各クラスに園の職員が入り、子どもたちに声をかけながら園で親しんできた手遊びや読み聞かせなどを行いました。その後、担任の指導の様子なども参観してもらいました。

【成果】

・子どもたちの表情がやわらぎ「学校」「教室」の敷居が少し低くなった。

・小学校教員は園で使っていた子どもたちに馴染のある言葉かけやワードを知ることができ、参考になった。

職員の連携・交流⑤⑦⑧

幼稚園参観

小学校職員が園の行事を参観しました。

【成果】・年長児の段階である程度まで要求できる技能や集団行動の内容を把握することができた。
・園職員の行う支援や配慮の仕方を学ぶことができた。

お誕生日会

運動会

いのやま発表会

〈研修〉

横浜市こども青少年局・横浜市教育委員会事務局　主催
「今と未来を生きる子どもたちに必要な力を大切にした保育・教育の実践」

第６分科会　「集団の中で生活することを通して、全体的な発達を促すとともに、社会性や豊かな心を育てる」
～港北幼稚園・港北保育園・山下みどり台小学校の実践報告～

実践報告での様子を見て、幼稚園や保育園で夢中になった経験が小学校で踏ん張る力になる、と実感できた。だからこそ小学校サイドでは、可能な限り就学前の子どもたちがどんなことに取り組み、どんな力を発揮してきたのかを知っておくべきだと強く感じた。

幼稚園や保育園ではスタンダードに使われていても、小学校ではあまり馴染のないプラカップなどを利用した活動なども見ることができ、接続期に導入することは有効なのではないかと検討の参考になった。

個別の配慮が必要なお子さんが、園で適切な支援を受けることで見違えるように心と体が成長していく様子は感動に値するものであった。30人を超える学級の中でも、個々が支援を適切に受けられるようにするにはどうするかという課題をもつことができた。

子どもの交流①

どんぐりパーティ

たくさん集めたどんぐりを使って1年生が様々な遊びを考え、園児たちを招待しました。

コロナ禍のため園の子どもたちにはクラスごと3回に分けて小学校に来てもらうことになりましたが、1年生はそのたびにお兄さん・お姉さんらしさを忘れず園児に温かく接する姿が見られました。

【成果】

・新しい場所や人と接する際の年長児の様子やルールのある遊びへの参加の様子などを見取ることができた。

・卒園児の成長の様子を園の職員と共有することができた。

【今後に向けて】

〇成果

・あらためて子どもたちの育ちの上で幼保小の連携がいかに大切かを意識することができた。

・職員同士が互いに顔を繋いだことでコミュニケーションをとりやすくなった。

・校内でのスタートカリキュラム再編に向けて足がかりを掴むことができた。

〇課題

・コロナ禍における交流の延期や中止の連絡が相次ぎ、計画を断念せざるを得ない状態が続いている。感染症対策を行いつつ、どのように意義ある交流ができるのか、柔軟な発想を求められている。

・1年生の担任以外の職員はなかなか当事者意識をもてないのが現状。今後どのように打開していくか。